

試合規定

今大会は原則として当該年度の公認野球規則、および大会特別規定を適用して開催する。

- ・各チームは原則としてその会場の前の試合の4階終了時（ただし、4回時点でのコールドゲームが成立した場合は試合終了後、第1試合については試合開始40分前）までに所定のメンバー表を協議委員会に提出して審判員立会いの下で先攻・後攻を決める。また投手の投球回数申告用紙（各投手それぞれに前のしあいまでの投球回数を記入すること）も提出する。
- ・試合は原則として7イニングス制とし、4回終了時点を持って成立（コールドゲーム）とする。また試合成立後、雨天などやむをえない事情で試合を中止する場合のコールドゲームになった場合は、両チームが攻撃の完了した均等回までの成績を対象とする。
- ・コールドゲーム宣告の時点での引き分けの場合、打ち切り時点におけるメンバー9人ずつによる抽選で次の試合に進出するチームを決める。
- ・また4回を満たさず試合が中止になった場合はサスペンデッドゲームとして、後日大会本部が指定した会場、日時で続きを行う。
- ・得点差によるコールドは4回以後終了時点で10点差以上ついた場合に適用する。（決勝戦は対象外）
- ・また7回を終了した時点で同点になった場合は延長戦とするが、苑長10回、もしくは10回を満たさなくても試合開始から2時間以上を経過した場合にはタイブレイク方式により延長を再開する。決勝戦に限り試合時間を2時間20分とする。
 - ・タイブレイクは苑長11回（もしくは10回を満たさずに2時間以上を経過した場合はその次のイニング）から、1アウト満塁の状態で開催する。この場合、前のイニングの打撃を完了した選手の次の打者の選手が最初の打者となり、走者は1塁から順にまへのイニングの最後から数えて3人の打者が勤める。（怪我などその他の理由での代打と代走は認める。）
 - ・投手のノーヒットノーランは認めるが、完全試合は認めない。またタイブレイクによる出塁した3人の選手は自責点扱いしない。
 - ・打者はタイブレイクにより出塁した3人の選手は出塁の記録は認めないが、盗塁（盗塁死を含む）、得点、残塁は記録する。
- ・投手は同じ日に7イニングス以上、また2日間連続（もしくはダブルヘッダーによる連投の場合も含む）10イニングスいじょの投球は禁ずる。また0/3～2/3イニングの端数についてはしれじれの試合ごとに切り上げて1回の扱いとする。
- ・打者（次の打者も）・走者は危険防止のため必ず両耳に安全ガードを付けたヘルメットを装着すること。保守も防護ヘルメットや所定の防具を装着すること。
- ・怪我などの理由により一時的に出場できない選手に対して「特別代走」を認める。この場合、その打者の最も近い打撃を終えた投手以外の選手を対象とする。
- ・監督・コーチは1試合につきマウンドへいけるのは2回まで。（投手交代の場合は回数に数えない）3回以上マウンドに行ったら、その時点の投手は自動的に交代しなければいけない。また延長戦になった場合はそれ以前の回数に関係なく、3イニングごとに1回だけ投手のところへいくことは認める。